

うきぬのいけ 浮布池【三瓶町池田】

浮布池は南北約750m、東西約400mの広さを持つ天然湖沼です。この湖は、684年、四国の土佐沖を震源地とした白鳳地震の際に、親三瓶と子三瓶の峯の間が崩壊、溪流をせき止めて出現したとされています。

池には大蛇にまつわる伝説があります。

『池のほとりに住んでいた美しい姫が、青年の姿に変身した大蛇に恋するようになった。ある日そこを通りかかった弓の名手が大蛇と一緒にいる女性を見かけた。その女性の顔に凶相が表れているように見え、「助けねばならない」と感じた名手が弓を引き、弓は大蛇に命中し、池に消えた。姫は青年の後を追って池に身を投げた。姫が身を投げたと言われる7月15日に、毎年池の北汀にある鳥居から中の島の瀬幣姫神社にかけ幅2メートルの白い波の道が立ち、その様は着物が湖面を漂っている姿に見える』という浮布池の名の由来です。

浮布池のこの伝説を知る人は少なくなっていますが、毎年7月中旬に行われる祭りは今も続いています。

一昨年から地元のまちづくり推進協議会が、浮布池の保全と周囲の景観を復活させようと、池のほとりから三瓶山の全貌が見渡せるように整備し、桜の植栽も行いました。三瓶の賑わいの創出に向け改めて取り組みが始まりました。



浮布池展望所からの眺め



展望所を整備して、みなさんをお待ちしています。

ふるさとは今

■ 浮布池への行き方 ■

県道三瓶山公園線（県道30号）を大田町方面から三瓶山を目指して進むと、浮布池の道路看板があります。（三瓶山西の原の約1km手前）道路看板を右折し0.5kmほど道なりに進むと正面に浮布池が見えてきます。JR大田市駅から車で約25分。

詳しくは池田まちづくりセンター ☎0854-83-2168

表紙

あの頃 ～温泉津温泉街(昭和29年)～

表紙と右の写真は、昭和29年4月1日に旧温泉津町・湯里村・福波村・井田村が合併し、新しく温泉津町が誕生したお祝いの仮装行列です。4地区それぞれが仮装をして、温泉街を歩いたそうです。



▲ 現在

女装している人やお面をかぶっている人、はしゃいでいるその姿が滑稽でとても楽しそうです。温泉津の町のにぎわい、町をあげての行進に往時の人々の勢いを感じます。

当時の人口は温泉津町全体で12,065人（昭和29年5月1日）、現在は3,552人（平成22年4月末）と今の約3倍でした。

昭和の大合併といわれるこの年、県道温泉津隧道開通・温泉津町消防団発足・農業委員会合併と沢山の出来事がありました。

石見銀山で採掘された銀の積み出し港として栄えた温泉津。現在は、世界遺産登録により再び脚光を浴び、温泉街には連休ともなれば沢山の観光客が訪れます。昔ながらのしっとりとした静かな佇まいを残しながらも更に輝き続けます。



表紙とこの写真は長野矩廣さん(温泉津)からご提供いただきました

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行 / 大田市役所総務部まちづくり推進課 TEL:0854-82-1600 FAX:0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail: o-matidukuri@iwamigin.jp <http://www.city.ohda.lg.jp/>

“おおだ”の定住サイト「どがどが」 <http://www.teiju-ohda.jp/>

どがどが 検索